購読申し込みは
フリーダイヤル
0120(728)468

大阪日日新聞
2013年（平成25年）
9月8日
日曜日
号外

20年五輪 東京開催

56年ぶり2度目 IOC決定

【ブエノスアイレス共同】国際オリンピック委員会（IOC）は7日（日本時間8日早朝）にブエノスアイレスで開いた総会で、2020年の第32回夏季オリンピック大会の開催都市に東京を選んだ。1964年の第18回東京大会以来56年ぶりで、アジアでは初めて2度目の開催となる。会期は7月24日から8月9日まで。

72年札幌、98年長野の冬季大会を含めると日本では4度目の五輪となる。パラリンピック大会の開催も決まった。

開催都市は約100人のIOC委員による投票で決まり、東京は招致を争ったスペインのマドリード、トルコのイスタンブールを上回った。

投票に先立って行われた招致プレゼンテーションには安倍晋三首相が出席し、国の全面的な支援を約束。高円宮妃久子さまもスピーチをされた。

東京は高度に発達した都市機能と4千億円の基金を準備した財政力などで「安心、安全で確実な五輪」を訴えた。東京都の猪瀬直樹知事、IOC委員でもある招致委員会の竹田恒和理事長らが登壇し、東日本大震災からの復興に五輪が寄与することもアピールした。

東京は、リオデジャネイロが招致に成功した16年大会に続く立候補で、前回の雪辱を果たした。

五輪公園地区。国立競技場は五輪スタジアムに全面改築される＝8月28日、共同通信社ヘリから

都市機能と財政基盤

東京の安心感に支持

※東京都の「立候補ファイル」による

高い都市機能と強固な財政基盤を持つ東京への安心感が、多くの国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）委員の支持を得た。ライバル２都市のマイナス要素が東京の強みを浮かび上がらせる形となり、悲願の勝利を収めた。

５度目の挑戦で、当初は本命視されたイスタンブールの失速が味方した。経済成長を遂げ、アジアと欧州をまたぐ２大陸での開催という「最高のストーリー」（ＩＯＣ幹部）を掲げたが、６月にトルコ全土に拡大した反政府デモで一気に信頼を失った。

その後はマドリードとの激戦となったが、失業率が25％を超すスペイン経済危機への不安が最後まで影を落とした。

２０１４年にはロシアで初の冬季五輪がソチで開かれ、16年夏季五輪は南米初となるリオデジャネイロで開かれる。しかし、ソチ五輪は開催費用が大幅に膨らみ、リオ五輪は本番３年前になって準備の遅れが大問題となっている。「なぜ東京か」という開催意義は前回の16年五輪招致と同様に弱かったが、ＩＯＣは大義名分より確実さを優先させた。

終盤には東京電力福島第１原発からの高濃度汚染水漏れへの懸念が欧米を中心に高まったものの、致命傷とはならなかった。ロビー活動にスポーツ界だけでなく政財界が本腰を入れ、弱点といわれた外交力でも国の総力を挙げた戦いを展開した。（共同）